



MLBの歴史

- 1860年代前半 報酬を目的としてプレーするプロが登場
- 1868 プロ選手規定が正式に制定
- 1869 Cincinnati Red Stockings (初のプロ選手のみで構成されたチーム)
- 1871 National Association (最初のプロリーグ) 5年間で破綻
- 1876 National League (最初のメジャーリーグ)
- 1882 American Association
- 1884 Union Association 1年で解散
- 1890 Players League 1年で解散
- 1891 American Association解散 → 1リーグ制に
- 1900 12球団 → 8球団 (Baltimore, Cleveland, Louisville, Washington DC)
Western League (マイナーリーグ) が American League と改称
- 1901 American League が Major League 宣言 (National League が容認) → World Series
- 1946 Brooklyn Dodgers が ジャッキー・ロビンソン と契約
- 1994 3地区制の導入 長期ストライキ マイケル・ジョーダン





Baltimore Orioles



ボルティモアむくどりもどき
(州鳥)

- 1901 ミルウォーキー・ブリュワーズ
- 1902 セントルイス・ブラウンズ
- 1951 新オーナー ビック・ベック
- 1954 ボルチモアのクラレンス・マイルズと
ジェリー・ホフバーガーを代表とする資産家
グループにブラウンズを売却
本拠地をボルティモアへ Baltimore Orioles





Boston Red Sox

1983 Western Leagueの球団としてToledo, Ohioに誕生

1900 American League発足と同時に本拠地をBostonに移す

愛称

1901年の球団創立当初はアメリカンズ

1902年からの2年が...

1904年からの3年間...

他にもピューリタンズ

1912 Fenway Park開場

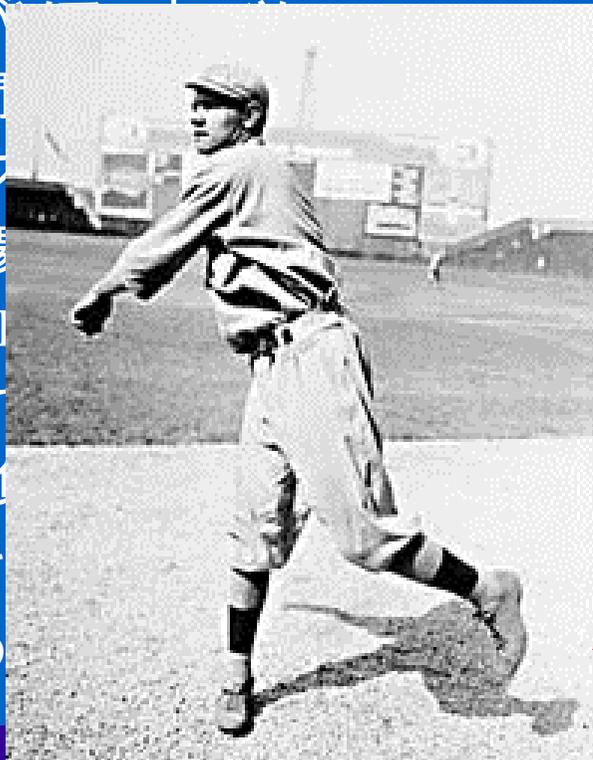
1914 George Herman Rube Foster

1920 経営難にあえい

30万ドル以上の負債

ベーブ・ルースを

2002年ワールドチャンピオン時代の
Babe Ruth



バンピーノの呪い





Tampa Bay Rays



- 1990 ドーム球場であるフロリダ・サンコースト・ドーム（現在のトロピカーナ・フィールド）が開場
- 1998 Tampa Bay Devil Rays
- 2006 経営陣・GM・首脳陣の大幅な入れ替えを断行。
GM兼副社長には、元エリートの銀行マンで
当時28歳という若さだったアンドリュー・フリードマン
- 2007 Tampa Bay Rays

トロピカーナ・フィールドでは、
珍しくカウベルを鳴らしてレイズを
応援することが恒例となっている





Toronto Blue Jays



アオカケス

1977 Seattleとともに設立

2000 現在の親会社であるロジャース・コミュニケーションズがチームを買収。2004年には本拠地のスカイドームをスポーツコ・インターナショナルから買収し、ロジャース・センターに改名。

(ロジャース・センターは世界初の開閉式屋根付き球場)

2005 モントリオール・エクスポズがワシントンD.C.に移転してからは、カナダ唯一のチー

毎年7月1日のカナダ・デー(連邦結成記念)には原則ホームゲーム





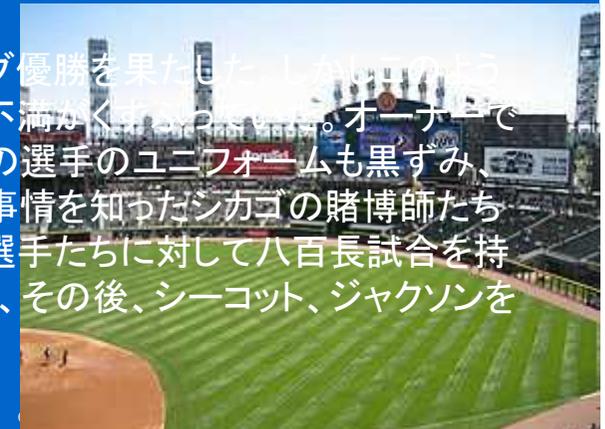
Chicago White Sox

前身はSt. Paul Saints

1901 本拠地をシカゴに移し、メジャーリーグに加入
同時期にリーグに加盟したボストン・レッドストッキングス
(現:アトランタ・ブレーブス)に対抗して、シカゴ・ホワイト
ストッキングスと名乗る

この頃から地元紙シカゴ・トリビューンが、紙面でホワイ
トソックスと略して掲載するようになったのを機に、ホワイ
トソックスという名称が一般化した。

1918年は6位と低迷してしまいが、翌1919年には88勝52敗で4度目のリーグ優勝を果たした。しかしこのよう
なチームの好成績とは裏腹にチーム内では低水準の給与体制に対する不満がくすぶっていた。オーナーで
あるコミスキーは選手のユニフォームの洗濯代でさえ渋ったといわれ、どの選手のユニフォームも黒ずみ、
当時のホワイトソックスは「ブラックソックス」とあだ名されていた。こうした事情を知ったシカゴの賭博師たち
は、シンシナティ・レッズとのワールドシリーズの前に、ホワイトソックスの選手たちに対して八百長試合を持
ちかけた。一塁手だったチック・ガンディルがまずこの話に乗ったといわれ、その後、シーコット、ジャクソンを
含む7人の選手が八百長に加担することとなった。





Cleveland Indians

1860年Forest City Baseball Clubという名前のNational Association
 「歯を剥き出してニヤけた赤い顔をした」インディアンキャラクターである。
 1879-84 Cleveland Blues
 このキャラクターは「人種差別的なインディアンのステレオタイプである」
 1889-99 Cleveland Spiders運動 (AIM) など多数のインディアン権利団
 体・個人が「インディアンズ」のチーム名と共に、その意匠廃絶を求めて
 1901 Cleveland Naps
 激しい抗議を半世紀近く行っているものである。しかし、インディアンズは
 現在もこの要求に応じる姿勢を見せていない。



本拠地であるプログレッシブ・フィールドは、2007年まで
 ジェイコブス・フィールドと呼ばれていたが
 2008年に自動車保険会社のプログレッシブ
 16年5800万ドルでネーミングライツを獲得
 この名前に変更





Detroit Tigers



1881-88 Detroit Wolverines

1896 Benet Park開場

1901 Detroit Tigers

2000 Comerica Park開場

アメリカ大陸には虎は棲息しない。このタイガースという名前は、球団発足当時の監督が濃紺地にオレンジ(アメリカでは一般に、虎の色は黒と黄色ではなくこの2色で表現されることが多い)のストライプのストッキングを履いていて、それがトラの縞を連想させた。





Kansas City Royals



1955-67 Kansas City Athletics → Oakland
1969 Kansas City Royals

Royalは直接は地元カンザスシティで1899年から毎年行われている家畜祭(品評展示会に娯楽要素も含めたイベント)「American Royal (アメリカン・ロイヤル)」に由来





Minnesota Twins

1908 Washington 敵役としたコメディ映画「メジャーリーグ3

1955」(正式名 Major League Back to the Minors)

が制作される。石橋貴明
息子のラルフィン・グリブスがオーナーに就任

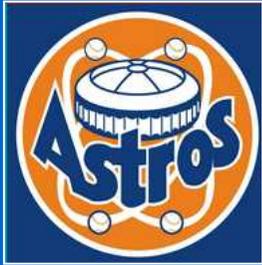
1961 Minnesota Twins

(州の名前を球団名にしたのはこれが初めて)

1982 老朽化したメトロポリタン・スタジアムから、
新球場メトロドームに本拠地を移す

チーム名は本拠地であるミネアポリス市とミシシ
ッピ州のミネソタ州の州都セントポール市が「ツイン
ズ(双子都市)」と呼ばれることに由来





Houston Astros

1962 Houston Colt 45's 本拠地 Colt Stadium
(ヒューストンに存在した拳銃製造会社の
コルト・ファイヤーアームズ社の代表的な製品)

1965 Houston Astros (NASA宇宙センターから)
アストロドーム開場 (世界初の屋内型スタジアム)

建設された背景: 地元ヒューストンの高温多湿な気候と、それに伴う蚊の大量発生が観客や選手を悩ましていたことがあげられ、これらを一挙に解決するための画期的な方法であった。

1975 歴代で最も派手と言われる

レインボーカラーのユニフォーム

2011 マクレーンがヒューストンの実業家を
グループに約6億8000万ドル(約551





Los Angeles Angels of Anaheim



1961 LA Angels (アメリカンリーグの球団拡張によって誕生)

1966 California Angels (Anaheim Stadium)

(州名を冠したのはミネソタ・ツインズに続き2球団目)

1997-2005 ウォルト・ディズニー社が経営に携わっていた

2005 Angels of Anaheim

(ヒスパニックの実業家であるアルトゥーロ・モレノが
オーナーに就任。チケット、ビールの値下げ、家族向けの
低価格帯グッズの販売などを展開)

チームの価値も上昇し、現在は2003年当
時の買収額である約1億8000万ドルから
約3億6800万ドルほどになったといわれる





Oakland Athletics

1893 Philadelphia Athletics

1955 Kansas City Athletics

1968 Oakland Athletics

2006 新球場の名前がシスコ・フィールド (Cisco Field) となることが発表された。名称はシスコシステムズとのネーミングライツ契約によるもの。契約期間は30年で、年間400万ドル(4億7000万円)を球団に支払うことになっていた。球場建設予定地はシスコ・システムズから購入した58万平方メートルの土地であった。このように計画は着々と進められていたが、2009年2月24日、移転が検討されていた地域の住民の反対などを理由に、球団は移転中後の2月26日、サンノゼがアスレチックス側と移転に向かうことが報じられた。しかし、サンノゼを含むサンタクララ郡ジャイアンツのフランチャイズ地域であるため、ジャイアンツがサンノゼ移転反対を表明した。





Seattle Mariners

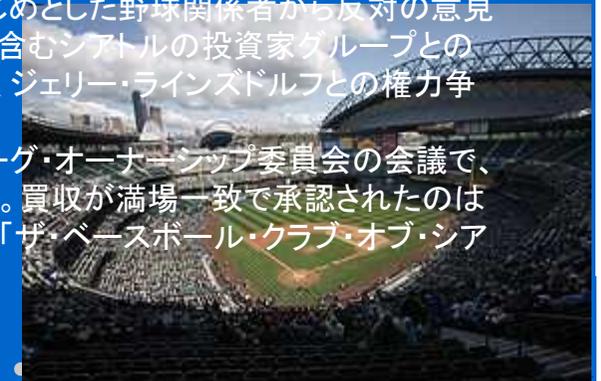
2004年8月までは任天堂の山内溥前社長がチームの共同所有者の一人として名前を連ねていた。現在は、任天堂の米国法人であるNintendo of America (NOA) が山内の出資持ち分全てを買い取り、筆頭オーナーとなっている。ホームフィールドの一室にはオーナーとして山内の写真が掲げられているものの、本人は現地に赴いたことがない。また、同球団の会長兼CEOは元NOA会長の進出を果たしたことが無い。

1991年、シアトルは再び地元からMLB球団を失おうとしていた。当時の球団オーナーがマリナーズをフロリダの投資家グループに売却を検討していたためである。当時の球団は、チーム成績の低迷に伴う観客動員数の伸び悩みによって、慢性的な赤字に陥っていた。この一連の動きに対して、ワシントン州の上院議員スレイド・ゴートンは球団の消失を回避すべく行動に移る。1991年12月、スレイド・ゴートン上院議員は、任天堂米国法人であるNintendo of America (NOA) の荒川實社長に対してシアトル・マリナーズの買収を要請した。これを受け、翌年の1992年1月24日、任天堂の山内溥社長が任天堂本社で記者会見を開き、シアトルの投資家グループと「ザ・ベースボール・クラブ・オブ・シアトル」を結成して、シアトル・マリナーズを1億ドルで買収する意向を表明。その5日後の1月29日には、シアトル・マリナーズ球団オーナーに買収を正式に申し入れた。

しかし、任天堂が球団のオーナーとなることについて、コラムニストのボブ・グリーンをはじめとした野球関係者から反対の意見が相次いで上がった。当時のコミッショナーであるフェイ・ヴィンセントも、当初は任天堂を含むシアトルの投資家グループとの面会を拒絶。さらに、ヴィンセントと敵対関係にあったシカゴ・ホワイトソックスのオーナー、ジェリー・ラインズドルフとの権力争いにも巻き込まれ、交渉は困難を極めた。

4月3日になり、球団オーナーと売買契約書に調印したが、4月8日に行われたメジャーリーグ・オーナーシップ委員会の会議で、買収の承認は保留された。4月30日に行われた会議でも、買収の承認は再び保留された。買収が満場一致で承認されたのは、契約書に調印してから2ヵ月後の6月9日のことであった。それから2日後の6月11日には「ザ・ベースボール・クラブ・オブ・シアトル」によるシアトル・マリナーズの買収が全オーナー会議でも正式に承認された。

こうして、マリナーズはシアトルからの消滅を免れた。





Texas Rangers



- 1961 2代目のWashington Senatorsとして発足
- 1972 Texas Rangers (本拠地 Arlington Stadium)
- 1989年4月からジョージ・W・ブッシュが共同オーナー
- 1994 新球場The Ball Park in Arlington
(現:Rangers Ball Park in Arlington)

マスコットのレンジャーズ・キャプテン。
背番号「72」はチームがテキサスに移
転してきた1972年に由来





Atlanta Braves



1871 Boston Red Stocking

2007年2月12日、タイム・ワーナーと同じくアメリカの巨大メディア企業であるパラダイムメディアとの間で、パラダイムメディアが保有するタイム・ワーナーのMLB最古の球団

1912 Boston Bravesと交換することで交渉が成立、同年5月16日にオーナー会議でチーム譲渡が満場一致で承認された。評価額は4億

1953 Milwaukee Braves
5000万ドル(約545億円)。

1966 Atlanta Braves

かつてはターナー・ブロードキャスティング・システム(TBS)がオーナー企業だった。

1996年、TBSはアメリカ国内の巨大メディアグループであるタイム・ワーナーに買収された。地元ジョージア州を中心としたアメリカ南部で高い人気を誇るとともに、TBSを中心とした主催試合の代わりに、TBSはブレーブスに対する放映権料とは別ゆる「スーパーステーション税」を支払っていた)





Miami Marlins



1993-2011 Florida Marlins (Sun Life Stadium)

1999 投資家として成功していたジョン・W・ヘンリーが
チームを買収

2012 Miami Marlins (Marlins Park)

マーリンズの経常利益はMLB30球団のうち1位である。

これは市場は小さいが、選手へ払う年俸も安い、更に総年俸が安い
ためにMLBから支給されるレベニュー・シェアリングや贅沢税の分配金
を多く獲得出来るからである。

「マーメイズ」というチアリーディング・チームがある
これはMLB球団では唯一の存在である。

また新たに「マナティーズ」という太った男達による
た。





New York Mets



1962 NY Mets (ナショナルリーグの球団拡張で誕生)

Metsとは1880年代に存在したNY Metropolitan
(Metropolitansとは都会人の意)

チームカラーのうち、黒とオレンジはジャイアンツ、青はドジャース(いずれも1957年までニューヨークに本拠地を置いていた)のチームカラーから

1969 Miracle Mets

優勝パレード当日の天気予報はニューヨークの天気を
「晴れ、ところにより紙吹雪」

ヤンキースとの対戦はサブウェイ・シリーズ





Philadelphia Phillies



1883 Philadelphia Quakers

(当時スポーツ用品メーカーを経営していたジョン・ロジャースが、ナショナルリーグの前身であるウースター・ルビアンズを前身として、前年に破綻したウースター・ルビアンズを継承して創設)

1890 Philadelphia Phillies

フィリー(Philly)は本拠地フィラデルフィア市民の通称。ユニフォームで、左袖にも背番号がついていない。独特のものである。

フィリーズは長年に渡って黒人選手の受け皿となってきた。マスコットはフィリー・ファナティックという緑色の鳥。





Washington Nationals

1969 Montreal Expos (Olympic Stadium)

2005 Washington Nationals (National Park)

Nationalsの愛称は南北戦争前の1859年にホワイトハウスの職員を中心に結成されたワシントンD.C.最古の野球チーム『ナショナル・ベース・ボール・クラブ』に由来する。19世紀にはワシントンD.C.を本拠地とするいくつかのプロ野球の球団がこの愛称を用いたが、いずれも成績不振から短命に終わってきた。

ナショナルリーグの現存15球団で唯一、ワールドシリーズ進出を果たしたことの無
(前身のエクスポズを含む)





Chicago Cubs

1871 Chicago White Stockings

1876 監督アルバート・スポルディング
(後にスポルディングはスポーツ
スポルディング社を創立)

1889 Chicago Colts

1991 Chicago Ofans

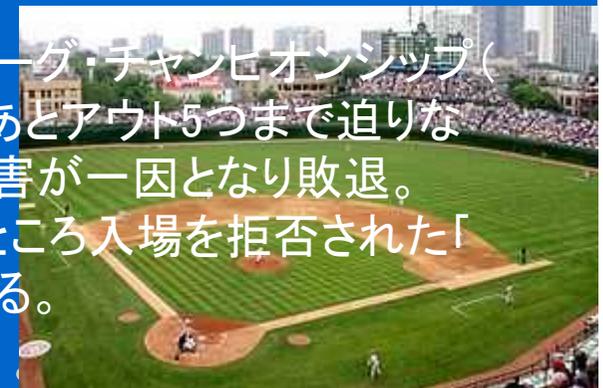
1992 Chicago Cubs

2003 ビリー・ゴートの呪い

2003年のフロリダ・マーリンズとのナショナルリーグ・チャンピオンシップ(NLCS)第6戦では、ワールドシリーズ進出まであとアウト5つまで迫りながら、ファウルボールを取ろうとしたファンの妨害が一因となり敗退。これは、かつて山羊を連れて観戦しようとしたところ入場を拒否された「ビリー・ゴートの呪い」ではないかと言われている。



ナイトゲームの試合数が制限されるリグレー・フィールド
(Fenway Parkに次いで二番目に古い)をホームスタジアムとしながら安定した集客を誇っている。





Cincinnati Reds

1882-89 Cincinnati Red Stocking (全米最古の野球チーム)

1890-1953 Cincinnati Reds

1953-58 Cincinnati Red Legs

(ノースリーブのユニフォーム)

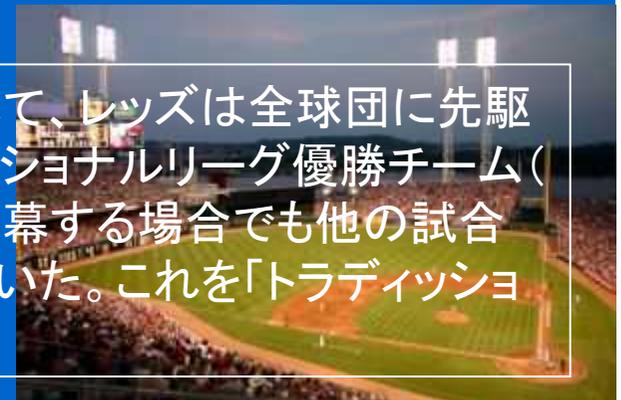
1958 Cincinnati Reds

1970年代 The Big Red Machine

1990 Nasty Boys

(ノーム・チャールトン、ロブ・ディブル、ランディ・マイヤーズ
の三人の速球派救援投手)

かつてはアメリカ最古のプロ球団であるレッズに敬意を表して、レッズは全球団に先駆けて、必ず本拠地で開幕戦を行った。基本的には前年のナショナルリーグ優勝チーム(レッズが優勝した翌年は任意に選択)と対戦し、同じ日に開幕する場合でも他の試合は全てレッズの試合よりも遅く開始するのが習わしとなっていた。これを「トラディショナル・オープナー(Traditional Opener)」と呼んだ。





Milwaukee Brewers



1969 Seattle Pilots

1970 Milwaukee Brewers

現オーナーはマーク・アタナシオ

Brewerとは「醸造者」という意味

地元ミルウォーキーがビール醸造が盛んなため。

本拠地のミラー・パークは、地元創業のビール会社であるミラー社が命名権を持つ。

世界4番目の開閉式屋根付き球場。

ホームランが出ると外野スタンドに設置されたすべり台から登場するマスコット「バーニー・ブルワー」





Pittsburgh Pirates

1882-90 Pittsburgh Alleghenies

(Alleghenyはピッツバーグ近郊に流れる河川名)

創設者のマックナイトは当初American Associationの代表
(他球団の契約を無視した強引な選手の引き抜きなどが理由で1886年にリーグから追放処分)

1891 Pittsburgh Pirates





St. Louis Cardinals



1882 St. Louis Brown Stocking / Browns しょうじゅうこうかんちょう

チーム名
(ブラウン stockings のフランチャイズ権は、ドイツ移民で地元セントルイスの名士であったウィリアム・グロウアーが1880年に買い取った。当時の選手たちが朱色のユニフォームを着用していたことから、地元紙記者が同じ色の州鳥にひっかけたことが由来) (アーチは5年後の1882年に、セントルイス・ブラウンズとして新たに球団を設立)

1899 St. Louis Perfects

(クリーブランド・スパイダーズを所有していたオーナー達によって、チームが買収され、セントルイス・パーフェクトズに改名)

1900 St. Louis Cardinals

1953-96 Budweiser 知られ、地元企業でも
ブッシュ社がオーナー企業 (現在)





Arizona Diamondbacks



1998 Arizona Diamondbacks

2006 球団はチームカラーを赤へ変更すると発表。

ユニフォームが赤を基調としたデザインに変更された。深い赤はアリゾナ州の景勝地として有名なセドナの赤い岩を、ベージュはソノラ砂漠の砂をイメージしたもの。また、これまでビジター用キャップに使用されていた、ガラガラヘビがチーム名の頭文字"D"を象っているロゴマークが、ホーム用キャップに使用され、これまでホーム用キャップで使用されていた"A"のロゴマークは、これまでビジター用キャップに使用されることになった。





Colorado Rockies



1993 Colorado Rockies

チームとしてキリスト教信仰を重視している。

ロッカールームやトレーニングルームからは俗世的な雑誌は排され、スポーツ雑誌等の他に聖書が置かれている。

壁には聖書からの引用文などが掲げられ、日曜日にはチームで礼拝も行われる(任意参加)

標高1600mと高地にあり、打球の飛びやすいクアーズ・フィールドを本拠地としている。





Los Angeles Dodgers

1884 ブルックリン・アトランティックス

1885-87 ブルックリン・グレイス

1888-98 ブルックリン・ブライドグルームス/グルームス

1899-1910 ブルックリン・スーパーバス

1911-12 ブルックリン・トロリードジャース

1914-31 ブルックリン・ロビンス

1932-57 このブルックリン地区に本拠地を置いていた

時代に、路面電車が極めて多かったブルックリンの住

人の呼び名「路面電車をよける(dodge)人々」を表す (-1996)

1977 監督：ジョー・トーマス
1997 トーマス会長が球団をフォックスグ





San Diego Padres



1969 San Diego Padres

1974 マクドナルドのレイ・クロックにより買収され、
サンディエゴにとどまることとなった

(1994年以降は、テキサス出身の実業家ジョン・
ムーアズがオーナーとなっている)

Padreとはスペイン語で神父を意味する言葉で
サンディエゴの開拓者であるスペイン人の
フニペロ・セラ神父に因んでいる

マスコットの
「スウィング・フライアー」





San Francisco Giants



1882 ニューヨークの資産家ジョン・B・デイと、
ジム・マトリーによって創設

1883-84 ニューヨーク・ゴッサムズ

1885-1957 ニューヨーク・ジャイアンツ

1958 San Francisco Giants

本拠地のAT&Tパークでは、

ジャイアンツファンによる“BEAT LA”(ロサンゼルスを叩け!)

の合唱がいつも聞かれる。

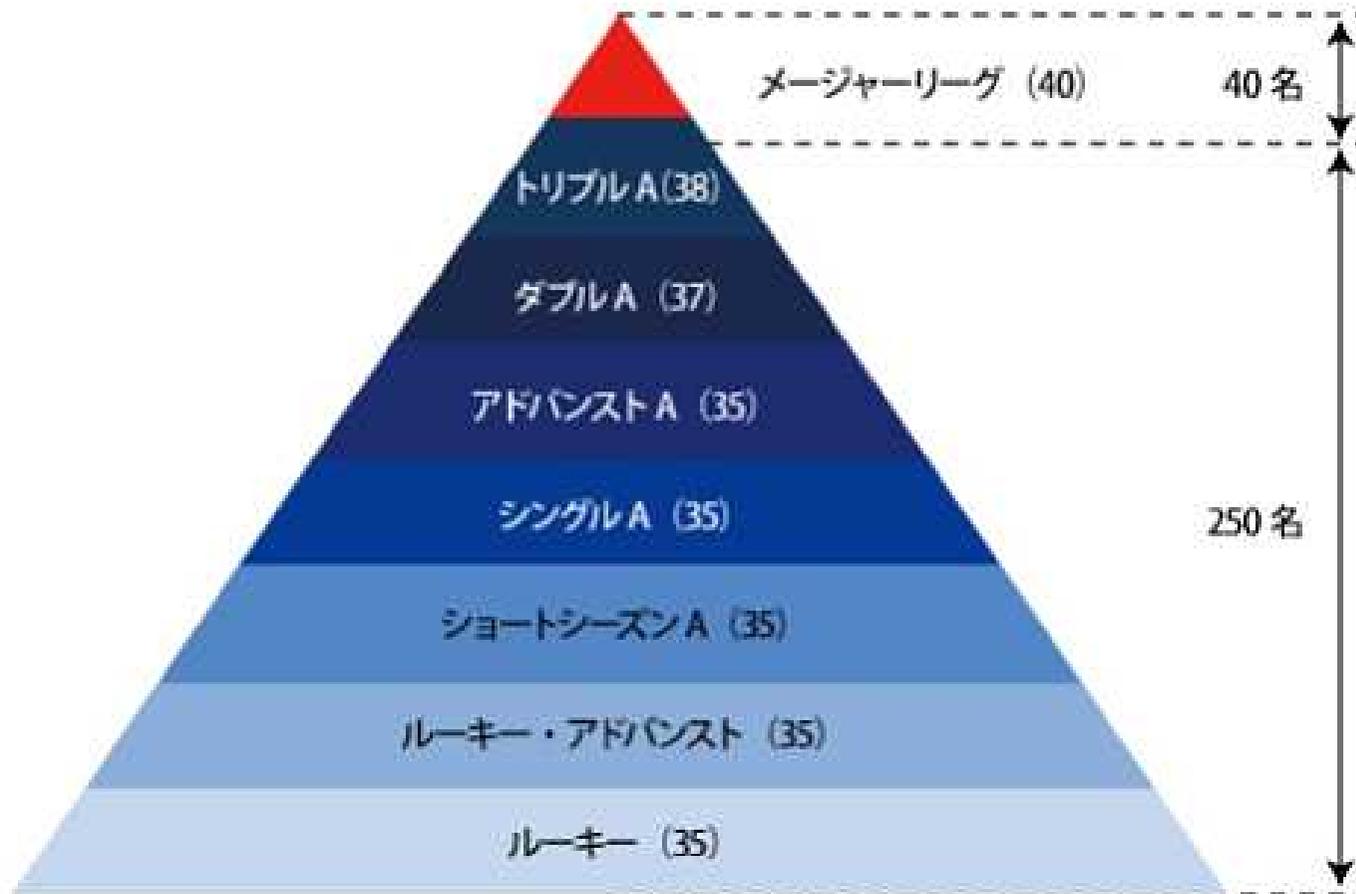
チーム名の由来は、当時ゴッサムズの監督を務めていたデルフィア・フィリーズとの試合での勝利に興奮し、「大きく見える」と叫んだという説と、かつて2人の長官による説がある。





Major League

マイナーリーグの階層とそれぞれの登録選手枠上限 (括弧内)





Minor League (MiLB)

通常は北アメリカのプロ野球リーグの最高峰「メジャーリーグベースボール」の傘下リーグとなっている「マイナーリーグベースボール」を意味する。

AAA(トリプルA : 3A)

AA(ダブルA : 2A)

アドバンスドA

クラスA

ショートシーズンA

ルーキー・アドバンスド

「ルーキーリーグ」(最下位組織)

MLB所属チームは複数の階層のMiLB所属チームと選手育成契約(Player Development Contract, PDC)を結び、その下部組織としている。

MiLB所属チームは契約したMLB所属チームがドラフト及びカリブ海ドラフトで獲得した選手の育成、故障選手の練習の場となるほか、独自に獲得した選手を育成してMLBに供給する役割も担う。





Minor League (MiLB)

MiLB所属チームはほとんどが独立資本であり、本拠地を置くアメリカやカナダの地方都市で地域密着型の独立採算制の運営を行っている。

MLB所属チームと契約した選手の給料はそれぞれの契約チームから支払われているものの、マイナー球団が独自に獲得・契約した選手の給料やそれ以外の経営に必要な経費は、自らの試合チケットやグッズ、広告枠の販売によって得る収入からまかなわれるのが原則である。

アメリカで最初にこのシステムを導入したのはセントルイス・カージナルスである。





ハンバーガー・リーグ

40人ロースター(メジャー契約を結ぶ)枠に入っている選手を除き、選手はマイナー契約を結んでプレーする。

マイナー契約選手の年俸水準はメジャーリーガーに比べて相当に低い。

年俸の他は遠征の際に1日につき25ドルのミールマネー(食事代)が支払われるだけである。

選手が毎日の食事にハンバーガー程度のものしか食べられないということから「ハンバーガー・リーグ」という呼び方がされている(メジャーリーグは対比して「ステーキ・リーグ」と呼ばれる)。





傘下のマイナー (SOXの場合)

クラス	チーム	参加リーグ	提携	本拠地
AAA	シャーロット・ナイツ Charlotte Knights	インターナショナルリーグ International League	1999年	サウスカロライナ州フォートミル ナイツ・スタジアム
AA	バーミングハム・バロンズ Birmingham Barons	サザンリーグ Southern League	1986年	アラバマ州フーバー レジオンス・パーク
A+	ウィンストンセイレム・ダッシュ Winston-Salem Dash	カロライナリーグ Carolina League	1997年	ノースカロライナ州ウィンストンセイレム BB&Tボールパーク
A	カナポリス・インティミデーターズ Kannapolis Intimidators	サウス・アトランティックリーグ South Atlantic League	2001年	ノースカロライナ州カナポリス フィールドクレスト・キャノン・スタジアム
Rookie	ブリistol・ホワイトソックス Bristol White Sox	アパラチアンリーグ Appalachian League	1995年	バージニア州ブリistol デヴォート・メモリアル・スタジアム
	グレートフォールズ・ボイジャーズ Great Falls Voyagers	パイオニアリーグ Pioneer League	2003年	モンタナ州グレートフォールズ センティーン・スタジアム
	ドミニカン・サマーリーグ・ホワイトソックス Dominican Summer League White Sox	ドミニカン・サマーリーグ Dominican Summer League	1989年	ドミニカ共和国 シウダー・デ・ベースボル





MLBのシーズン

4月～9月 レギュラーシーズン 162試合
7月 オールスターゲーム
10月 ポストシーズン
 ディビジョンシリーズ進出決定戦
 (ワイルドカードプレーオフ)
 リーグチャンピオンシップシリーズ
 ワールドシリーズ





American League

East	W	L	Pct	GB	Home	Road	RS	RA	Diff	Streak	L10
Boston Red Sox	21	11	.656	--	12-5	9-6	158	120	+38	Won 1	6-4
New York Yankees	18	12	.600	2.0	12-7	6-5	133	123	+10	Lost 1	7-3
Baltimore Orioles	19	13	.594	2.0	7-5	12-8	159	133	+26	Won 2	6-4
Tampa Bay Rays	14	17	.452	6.5	8-5	6-12	138	138	0	Lost 1	4-6
Toronto Blue Jays	12	21	.364	9.5	7-12	5-9	125	171	-46	Won 2	3-7
Central	W	L	Pct	GB	Home	Road	RS	RA	Diff	Streak	L10
Detroit Tigers	19	11	.633	--	10-4	9-7	164	112	+52	Won 4	9-1
Kansas City Royals	17	11	.607	1.0	10-5	7-6	122	105	+17	Lost 1	7-3
Cleveland Indians	15	14	.517	3.5	7-7	8-7	149	125	+24	Won 1	7-3
Minnesota Twins	13	15	.464	5.0	7-6	6-9	116	123	-7	Lost 1	4-6
Chicago White Sox	13	17	.433	6.0	7-7	6-10	104	118	-14	Won 1	5-5
West	W	L	Pct	GB	Home	Road	RS	RA	Diff	Streak	L10
Texas Rangers	20	12	.625	--	11-4	9-8	139	107	+32	Lost 1	5-5
Oakland Athletics	18	15	.545	2.5	9-8	9-7	174	157	+17	Lost 1	5-5
Seattle Mariners	15	18	.455	5.5	9-8	6-10	117	142	-25	Lost 1	7-3
Los Angeles Angels	11	20	.355	8.5	7-9	4-11	129	161	-32	Lost 2	3-7
Houston Astros	8	24	.250	12.0	4-12	4-12	123	198	-75	Lost 6	1-9

National League

East	W	L	Pct	GB	Home	Road	RS	RA	Diff	Streak	L10
Atlanta Braves	19	12	.613	--	9-5	10-7	136	103	+33	Won 2	4-6
Washington Nationals	17	15	.531	2.5	9-7	8-8	113	125	-12	Won 2	6-4
Philadelphia Phillies	15	18	.455	5.0	8-10	7-8	119	149	-30	Won 1	6-4
New York Mets	12	16	.429	5.5	7-8	5-8	137	138	-1	Lost 1	3-7
Miami Marlins	10	23	.303	10.0	5-11	5-12	98	142	-44	Lost 1	5-5
Central	W	L	Pct	GB	Home	Road	RS	RA	Diff	Streak	L10
St. Louis Cardinals	20	11	.645	--	7-5	13-6	150	108	+42	Won 6	7-3
Pittsburgh Pirates	17	14	.548	3.0	9-6	8-8	125	126	-1	Lost 2	5-5
Cincinnati Reds	18	15	.545	3.0	12-5	6-10	151	126	+25	Lost 1	5-5
Milwaukee Brewers	14	16	.467	5.5	9-10	5-6	135	148	-13	Lost 5	3-7
Chicago Cubs	12	20	.375	8.5	6-10	6-10	122	138	-16	Won 1	4-6
West	W	L	Pct	GB	Home	Road	RS	RA	Diff	Streak	L10
San Francisco Giants	19	13	.594	--	11-5	8-8	142	136	+6	Lost 1	6-4
Colorado Rockies	18	13	.581	0.5	10-5	8-8	164	137	+27	Lost 1	4-6
Arizona Diamondbacks	17	15	.531	2.0	8-8	9-7	145	123	+22	Won 1	4-6
San Diego Padres	14	18	.438	5.0	8-8	6-10	125	146	-21	Won 2	7-3
Los Angeles Dodgers	13	18	.419	5.5	7-9	6-9	106	140	-34	Lost 5	3-7

x-Clinched Playoff Spot; y-Division Champ



2012 World Series



World Series



Game	Date	Score	Location	Time	Attendance
1	October 24	Detroit Tigers – 3, San Francisco Giants – 8	AT&T Park	3:26	42,855 ^[24]
2	October 25	Detroit Tigers – 0, San Francisco Giants – 2	AT&T Park	3:05	42,982 ^[25]
3	October 27	San Francisco Giants – 2, Detroit Tigers – 0	Comerica Park	3:25	42,262 ^[26]
4	October 28	San Francisco Giants – 4, Detroit Tigers – 3 (10 innings)	Comerica Park	3:34	42,152 ^[27]





Commissioner Allan Huber "Bud" Selig

1969 ミルウォーキーのオーナー就任

1998 コミッショナー就任

(MLBのコミッショナー史上初の
オーナー出身のコミッショナーとなる。)

2度の任期延長で
2014年まで

代	コミッショナー	在任期間
1	ケネソー・M・ランディス	1920-1944
2	ハッピー・チャンドラー	1945-1951
3	フォード・フリック	1951-1965
4	ウィリアム・エッカート	1965-1968
5	ボウイ・クーン	1969-1984
6	ピーター・ユベロス	1984-1988
7	バート・ジアマッティ	1988-1989
8	フェイ・ヴァインセント	1989-1992
9	バド・セリグ	1998- ^[19]



2012 Attendance				Home			Road			Overall			
RK	TEAM	GMS	TOTAL	AVG	RK	TEAM	GMS	TOTAL	AVG	PCT	GMS	AVG	PCT
1	Philadelphia	81	3,565,718	44,021	1	Bulls	41	896,944	21,876	104.6	41	18,144	94.4
2	NY Yankees	81	3,542,406	43,733	2	Mavericks	41	821,490	20,036	104.4	41	17,613	92.5
3	Texas	81	3,460,280	42,719	3	Heat	41	819,290	19,982	102.0	41	19,090	99.1
4	San Francisco	81	3,377,371	41,695	4	Trail Blazers	41	813,012	19,829	95.4	41	16,727	88.0
5	LA Dodgers	81	3,324,246	40,940	5	Warriors	41	794,320	19,373	98.9	41	17,204	90.5
6	St. Louis	81	3,262,109	40,285	6	Clippers	41	788,293	19,226	100.9	41	17,806	93.4
7	LA Angels	81	3,061,770	37,800	7	NY Knicks	41	780,733	19,043	96.3	41	18,271	94.6
8	Boston	81	3,043,003	37,568	8	Lakers	41	777,177	18,957	99.7	41	18,866	99.0
9	Detroit	81	3,028,033	37,383	9	Jazz	41	770,741	18,800	93.8	41	16,769	88.3
10	Chicago Cubs	81	2,882,756	35,590	10	Celtics	41	767,141	18,711	95.8	41	17,204	90.5
11	Milwaukee	81	2,831,385	34,955	11	Spurs	41	763,541	18,623	94.6	41	17,204	90.5
12	Minnesota	81	2,776,354	34,276	12	Thunder	41	759,941	18,535	94.6	41	17,204	90.5
13	Colorado	81	2,630,458	32,475	13	Raptors	41	756,341	18,447	94.6	41	17,204	90.5
14	Washington	79	2,370,794	29,896	14	Nuggets	41	752,741	18,359	94.6	41	17,204	90.5
15	San Diego	81	2,366,194	29,336	15	Magic	41	749,141	18,271	94.6	41	17,204	90.5
16	San Jose	81	2,361,594	29,279	16	Nets	41	745,541	18,183	94.6	41	17,204	90.5
17	Arizona	81	2,356,994	29,222	17	76ers	41	741,941	18,095	94.6	41	17,204	90.5
18	Atlanta	81	2,352,394	29,165	18	Rockets	41	738,341	18,007	94.6	41	17,204	90.5
19	San Antonio	81	2,347,794	29,108	19	Grizzlies	41	734,741	17,919	94.6	41	17,204	90.5
20	Wizards	81	2,343,194	29,051	20	Wizards	41	731,141	17,831	94.6	41	17,204	90.5
21	Timberwolves	81	2,338,594	28,994	21	Timberwolves	41	727,541	17,743	94.6	41	17,204	90.5
22	Cavaliers	81	2,333,994	28,937	22	Cavaliers	41	723,941	17,655	94.6	41	17,204	90.5
23	Suns	81	2,329,394	28,880	23	Suns	41	720,341	17,567	94.6	41	17,204	90.5
24	Bobcats	81	2,324,794	28,823	24	Bobcats	41	716,741	17,479	94.6	41	17,204	90.5
25	Pacers	81	2,320,194	28,766	25	Pacers	41	713,141	17,391	94.6	41	17,204	90.5
26	Hawks	41	620,146	15,125	80.8	41	17,165	89.0	82	16,145	84.9		
27	Bucks	41	616,469	15,035	80.3	41	16,919	87.5	82	15,977	84.0		
28	Pistons	41	606,094	14,782	67.0	41	16,885	87.9	82	15,834	76.7		
29	Pelicans	41	565,930	13,803	80.3	41	17,254	90.1	82	15,528	85.5		
30	Kings	41	563,743	13,749	79.4	41	17,305	90.3	82	15,527	85.1		
25	Kansas City	80	1,739,859	21,748	57.4	81	27,447	64.7	161	24,615	61.3		
26	Seattle	81	1,721,920	21,258	44.4	81	28,262	67.0	162	24,760	55.0		
27	Oakland	81	1,679,013	20,728	60.6	81	29,978	68.0	162	25,353	64.8		
28	Houston	81	1,607,733	19,848	48.5	81	31,119	72.1	162	25,483	60.6		
29	Cleveland	81	1,603,596	19,797	45.6	81	28,285	68.2	162	24,041	56.6		
30	Tampa Bay	81	1,559,681	19,255	56.5	81	30,403	69.2	162	24,829	63.6		

Citizen's Bank Park 43,500
 Yankee Stadium 52,325
 Rangers Ball Park in Arlington 49,115

United Center 21,711
 American Airlines Center 19,200
 American Airlines Arena 19,600





戦力均衡策

現在コミッショナーを務めているバド・セリグ・コミッショナーは、かつて収益や観客動員の少ないミルウォーキー・ブルワーズのオーナーを長年務め、チームの経営難に苦慮した経験を持っていたため、コミッショナーに就任して以来戦力均衡策の導入に積極的だった。

インターリーグ(交流戦)、プレーオフでのワイルドカード、年俸総額が一定の額を超えたチームに課徴金(Luxury Tax、ぜいたく税)を課す課徴金制度などを導入した。

また、サラリーキャップ制や収益の完全分配などを導入することも検討されている。1965年に導入されていた完全ウェーバー制ドラフトなどもあり、2001年以降ワールドシリーズの優勝チームが毎年入れ替わっている。

ただし、所属選手の年俸総額を比較すれば各チームの戦力差に大きな開きが明らかであり、制度を充実させても、補強に積極的なチームとそうでないチームがあるとされている





収益分配制度

MLBの収益分配制度は2つある。

1つ目は**Base Plan**と呼ばれるもので、各チームの純収入(総収入から球場経費を除いた額)に20%課税し、各チームから集められた課税金の4分の3が全チームに均等に分配され、4分の1が全チームの平均収入を下回るチームに下回る額に比例して按分分配するという内容(スプリット・プール方式)である。1996年に導入され、その後、2002年8月に締結された労使協定で、税率が34%で課税額の全てを全チームに均等分配する内容(ストレート・プール方式)に改められた。

2つ目は**Central Fund Component**と呼ばれるもので、収入の高いチームに課税して、一定の規則のもと収入の低いチームに再分配するという内容(スプリット・プール方式)。

この制度の目的は、収入の低いチームにより多くの分配金を分配することで収支を改善し、戦力均衡を促すことにあった。ところが、チームがポストシーズンに進出できなくなると球団側は有力選手を放出し、チーム全体の年俸総額を下げ、多額の分配金を受け取ることを画策するようになり、結果的に戦力の均衡は達成できなかった。





テレビ放映権

MLBのテレビ放映権は、全国放送に限りMLB機構が管轄し、ローカル放送は各チームがFOXスポーツネット(FSN)に代表されるRegional Sports Network(RSN、ローカルスポーツ専門チャンネル)や地元放送局などと直接契約を結んでいる。

チームの本拠地が大都市であれば収入が大きくなり、小都市だと収入が少なくなるため、レギュラーシーズン・ポストシーズン全試合の放映権を管轄しているNFLとは違い、チームによって放映権料収入は大きく異なる。





FOXとTBSの現在の放映権契約内容

FOX	レギュラーシーズン土曜日午後の試合
	オールスターゲーム
	奇数年のアメリカンリーグチャンピオンシップシリーズ
	偶数年のナショナルリーグチャンピオンシップシリーズ
	ワールドシリーズ
TBS	レギュラーシーズン日曜日午後の試合 ^[31]
	ディビジョンシリーズ全試合
	奇数年のナショナルリーグチャンピオンシップシリーズ
	偶数年のアメリカンリーグチャンピオンシップシリーズ
	地区優勝やワイルドカードを決定するワンゲーム・プレーオフ

に
放
す

ト

5





日本での放送

日本向け放映権は電通が2004年から6年間2億7500万ドルで契約。テレビ放送では、日本放送協会 (NHK)・TBSテレビ (TBS)・フジテレビジョンで放送している。2008年まではスカパーJSAT (スカパー!、スカパー!e2)、モバHO!でも放送していた。

NHK・TBS・フジテレビは日本人選手が出場する予定の試合やオールスターゲーム・ポストシーズンを中心に生中継などを行っている。当初は地上波では上記3局で月ごとのローテーションを決めていたが、その後週単位のローテーションに変更された。大抵系列BSでの中継であり、特にNHK BSでの中継本数が多く、BSデジタル放送受信世帯数を押し上げる要因のひとつにもなっている。注目カードは地上波で中継される場合もある。2006年のワールドシリーズはフジテレビでダイジェストとして放送された。また、メジャーリーグ開幕戦を日本の東京ドームにて開催する場合は日本テレビが中継を担当していた (年度によってはフジテレビで中継する場合もある。)

スカパー!ではスカチャン (旧パーフェクト・チョイス) にて500~600試合の生中継に加えて再放送を行っていた。スカパー!e2では、スカチャン (旧スカチャン!) にて毎日1・2試合程度生中継を行っていた。2006-2007年はJ sports Plus (現J SPORTS 4) でも中継を行っていた (2007年は月曜夜に1試合録画中継)。

2007年4月、モバイル放送 (モバHO!) がモバイル放送権を獲得、同年5月より「チャンネルONE」 (映像協力・スカパー!) で原則毎日1試合放送していた。また、同年7月より2008年9月まで「モバイル.n」 (映像協力・NHK) で月2試合程度放送していた。

2009年、電通は2015年までの契約延長に合意した。新しい契約では、NHK、TBS、フジテレビに加えて、テレビ朝日、テレビ東京、J SPORTSでも放送されることになった[33]。一方、民放キー局のうち日本テレビだけは放映権を獲得せず、試合映像の配信も受けていない。

J SPORTSについては、CS放送の独占放映権に加えて、BS放送 (2011年10月よりJ SPORTS 1・2を放送開始、2012年3月よりJ SPORTS 3・4を放送開始) の放映権 (非独占) も獲得、同年6月より放送を開始している。

ラジオ放送では、ニッポン放送が1996年頃より独占放送権を持ち、「メジャーリーグ中継」を通常番組を休止して中継したり、通常番組内で日本人選手登板部分のみの中継を行っている。





順位	チーム	リーグ	国	資産価値 (百万ドル)	収入 (百万ドル)	営業利益 (百万ドル)
1	レアル・マドリード	リーガ・ エスパニョーラ	 スペイン	3,300	650	170
2	マンチェスター・ユナイテッドFC	プレミアリーグ	 イングランド	3,165	502	144
3	FCバルセロナ	リーガ・ エスパニョーラ	 スペイン	2,600	613	160
4	ニューヨーク・ヤンキース	MLB	 アメリカ	2,300	471	1.4
5	ダラス・カウボーイズ	NFL	 アメリカ	2,100	500	226.7
6	ニューイングランド・ペイトリオッツ	NFL	 アメリカ	1,635	380	118.8
7	ロサンゼルス・ドジャーズ	MLB	 アメリカ	1,615	245	3.2
8	ワシントン・レッドスキんズ	NFL	 アメリカ	1,600	373	109.0
9	ニューヨーク・ジャイアンツ	NFL	 アメリカ	1,468	326	59.0
10	アーセナルFC	プレミアリーグ	 イングランド	1,326	368	55
11	ボストン・レッドソックス	MLB	 アメリカ	1,312	336	23.9
12	バイエルン・ミュンヘン	ブンデスリーガ	 ドイツ	1,309	468	88
13	ヒューストン・テキサス	NFL	 アメリカ	1,305	304	61.9
14	ニューヨーク・ジェッツ	NFL	 アメリカ	1,284	299	27.0
15	フィラデルフィア・イーグルス	NFL	 アメリカ	1,260	296	48.2
16	シカゴ・ベアーズ	NFL	 アメリカ	1,190	286	65.3
17	サンフランシスコ・フォーティナイナーズ	NFL	 アメリカ	1,175	245	30.0
18	グリーンベイ・パッカーズ	NFL	 アメリカ	1,161	276	43.1
19	ボルチモア・レイブンズ	NFL	 アメリカ	1,157	279	48.6
20	インディアナポリス・コルツ	NFL	 アメリカ	1,154	268	62.6





全球団の年俸合計額

2012	3,148,498,166ドル
2011	2,999,557,280ドル
2010	2,911,575,488ドル
2009	2,913,904,332ドル
2008	2,879,357,538ドル
2007	2,711,274,581ドル
2006	2,496,687,254ドル
2005	2,123,852,856ドル
2004	2,195,640,472ドル
2003	2,400,424,777ドル
2002	2,040,392,901ドル
2001	1,995,870,540ドル
2000	1,661,338,710ドル
1999	1,463,828,701ドル

平均保証年俸

最低保証年俸

2012	480,000ドル
2011	414,000ドル
2010	400,000ドル
2009	390,000ドル
2008	390,000ドル
2007	380,000ドル
2006	327,000ドル
2005	316,000ドル
2004	300,000ドル





最低保証年俵

最低保証年俵	
2012	480,000ドル
2011	414,000ドル
2010	400,000ドル
2009	390,000ドル
2008	390,000ドル
2007	380,000ドル
2006	327,000ドル
2005	316,000ドル
2004	300,000ドル





年俵	年度	氏名	球団	生年	出身	区分
2800万 ^F _ル	2007	ロジャー・クレメンス	ヤンキース	1962	アメリカ	投手
	2008	アレックス・ロドリゲス	ヤンキース	1975	アメリカ	野手
2500万 ^F _ル	2009	マニー・ラミレス	ドジャース	1972	ドミニカ	野手
2342万8571 ^F _ル	2007	ジェイソン・ジオンビー	ヤンキース	1971	アメリカ	野手
2200万 ^F _ル	2005	バリー・ボンズ	ジャイアンツ	1964	アメリカ	野手
2160万 ^F _ル	2007	デレック・ジーター	ヤンキース	1974	アメリカ	野手
1970万 ^F _ル	2004	カルロス・デルガド	ブルージェイズ	1972	プエルトリコ	野手
1924万3682 ^F _ル	2009	カルロス・ベルトラン	メッツ	1977	プエルトリコ	野手
1900万 ^F _ル	2005	マイク・ムシーナ	ヤンキース	1968	アメリカ	投手
1897万1596 ^F _ル	2009	マグリオ・オールドネス	タイガース	1974	ベネズエラ	野手
1887万6139 ^F _ル	2009	ヨハン・サンタナ	メッツ	1979	ベネズエラ	投手
1800万 ^F _ル	2005	ジェフ・バグウェル	アストロズ	1968	アメリカ	野手
1800万 ^F _ル	2009	鈴木一朗	マリナーズ	1973	日本	野手
	2009	トリー・ハンター	エンゼルス	1975	アメリカ	野手
1787万5000 ^F _ル	2005	サミー・ソーサ	オリオールズ	1968	ドミニカ	野手
1571万4286 ^F _ル	2003	ケビン・ブラウン	ドジャース	1965	アメリカ	投手
1750万 ^F _ル	2004	ペドロ・マルティネス	レッドソックス	1971	ドミニカ	投手
1716万6667 ^F _ル	2003	モー・ボーン	メッツ	1967	アメリカ	野手
1666万6667 ^F _ル	2004	ショーン・グリーン	ドジャース	1972	アメリカ	野手
1650万 ^F _ル	2004	ランディ・ジョンソン	ダイヤモンドbacks	1963	アメリカ	投手
	2009	A.J.バーネット	ヤンキース	1977	アメリカ	投手
1642万8416 ^F _ル	2006	アンディ・ペティット	アストロズ	1972	アメリカ	投手
1607万1429 ^F _ル	2004	マイク・ピアッツァ	メッツ	1968	アメリカ	捕手
1600万8539 ^F _ル	2005	チップー・ジョーンズ	ブレーブス	1972	アメリカ	野手



メジャーリーグ球団 2012 年俸総額 (単位:ドル)		メジャーリーグ球団 2011 年俸総額 (単位:ドル)	
ヤンキース	223,302,212	ヤンキース	216,044,956
フィリーズ	169,728,180	レッドソックス	174,116,280
レッドソックス	168,614,614	フィリーズ	165,313,989
エンゼルス	160,146,581	エンゼルス	143,099,729
タイガース	140,701,213	メッツ	142,244,744
ジャイアンツ	138,149,994	カブス	140,608,942
レンジャーズ	134,283,218	ホワイトソックス	125,814,762
ドジャース	129,080,186	ジャイアンツ	125,111,390
カーディナルス	115,449,953	ツインズ	115,419,106
カブス	107,708,021	タイガース	113,230,923
メッツ	103,710,802	カーディナルス	113,156,467
ホワイトソックス	101,763,212	ドジャース	109,865,640
ツインズ	101,165,992	レンジャーズ	103,967,140
ブルワース	99,931,760	マリナーズ	98,067,684
ブレーブス	97,254,832	ロッキーズ	96,145,529
ナショナルズ	96,704,070	ブルワース	93,234,011
ブルーージェイズ	92,133,335	ブレーブス	88,128,545
マーリンズ	89,875,132	オリオールズ	86,856,480
オリオールズ	89,060,253	レッズ	81,621,587
レッズ	88,106,393	アストロズ	81,139,621
マリナーズ	84,450,157	ブルーージェイズ	75,851,382
ロッキーズ	84,194,072	ナショナルズ	72,022,999
Dバックス	77,162,625	アスレチックス	70,476,206
レイズ	70,425,489	ダイヤモンドバックス	65,603,602
インディアンズ	69,172,878	マーリンズ	61,940,280
ロイヤルズ	68,609,031	インディアンズ	53,533,393
アストロズ	63,941,672	パイレーツ	51,784,810
パドレス	62,878,686	パドレス	45,620,873
パイレーツ	61,300,313	レイズ	44,969,740
アスレチックス	59,493,290	ロイヤルズ	44,566,470
Total	3,148,498,166	Total	2,999,557,280



贅沢税

贅沢税	
2012	ヤンキース 1890万ドル
2011	ヤンキース 1390万ドル、レッドソックス 340万ドル
2010	ヤンキース 1800万ドル、レッドソックス 150万ドル
2009	ヤンキース 2569万ドル
2008	ヤンキース 2686万ドル、タイガース 130万ドル
2007	ヤンキース 2388万ドル、レッドソックス 606万ドル
2006	ヤンキース 2600万ドル、レッドソックス 50万ドル
2005	ヤンキース 3398万ドル、レッドソックス 416万ドル
2004	ヤンキース 2596万ドル、レッドソックス 315万ドル、エンゼルス 93万ドル
2003	ヤンキース 1180万ドル





トレード

7月31日(アメリカ東部時間16:00)がメジャー契約(40人枠内)選手をウェーバー公示無しでトレードできる期限日時となる。

8月以降のレギュラーシーズン期間もトレードは可能だが、その際メジャー契約の選手を放出する場合は事前にウェーバーを通過させる必要がある。

なお、マイナー契約の選手は前述の期限にかかわらずトレードが可能である。





セプテンバー・コールアップ

この月開催されるプロテストは双方ロケルアップと呼ばれる。プロテストを目標とするチームは、比較的容易に即戦力選手を獲得できるの選手がある。戦に出場させられる選手は、トレードで移籍する主力選手は契約年俸が高額であったり、シーズオフにはFAとなるような選手が多く、また交換要員に要求されるのは若手有望株の選手であることが多い。高コストの即戦力選手を短期間保有するために、シーズオフには出場できない(故障者リスト入り)選手は除く。その場合、40人枠の選手を故障者リスト入り選手と入れ替えてプレ見返りを得ようとする。

選手に十分な進出の可能性がある委備な若手有望選手に金銭を獲得できるという充実があるため、期限ギリギリまで下位に沈むチームから主力級選手を獲得し、抜き手選手が、評判通りの活躍を成し、見返成長金銭が若手有望選手(プロスペクト)を受け取っている。

そのほか、基本的に球団の意思により、トレードの駆け込み下位在籍が頻繁上、且つ現所属球団在籍5年以上の選手にはトレード拒否権が与えられる(ロースターに成り立つ)。25人枠未登録期間が1シーズンのうち20日以内の場合、1年在籍とみなされる。選手の駆け込みトレードを『ブラック・トレード』と呼ぶ。また、下位の選手と球団の契約で盛り込むことも可能である。権利保有選手が拒否権を放棄しない限りは、トレードを行うことはできない。





2013年 4月 28日

2013年 4月 29日

2013年 4月 30日

2013年 5月 1日

2013年 5月 2日

2013年 5月 3日

パイレーツ	昇格	SS ジョーディ・マーサー	-	-
-	放出	RP コディー・エプリー	ヤンキース	-
ヤンキース	獲得	SP プレストン・クレイボーン	-	-
-	放出	SP チャーリー・モートン	パイレーツ	-
-	降格	RP ジャレッド・ヒューズ	パイレーツ	-
パイレーツ	獲得	RP ホセ・コントララス	-	-
-	降格	CF コリン・カウギル	メッツ	-
メッツ	獲得	LF アンドリュー・ブラウン	-	-
マイナー	降格	C ウンベルト・キンテロ	フィリーズ	-
カーディナルズ	獲得	RP カーロス・マルチネス	-	-
-	降格	RP ミッチェル・ボッグス	カーディナルズ	-
-	降格	CF ジョシュ・プリンス	ブルワーズ	-
-	降格	3B アンソニー・レンドン	ナショナルズ	-
-	放出	RP ジャスティン・ハーマノ	ブルージェイズ	-
ブルージェイズ	昇格	SP リッキー・ロメロ	-	-

2013年 5月 2日





ドラフト

毎年6月上旬に開催され、アメリカ合衆国、合衆国領プエルトリコ、カナダの高校・短大・大学および独立リーグに在籍する選手(外国籍含む)を対象にしている。

ルール・フォー・ドラフト(MLB規約の第4条に規定されていることに由来)、ファースト・イヤーとも呼ばれる。

なお大学生は3年修了(見込み)の選手もドラフト対象となる。

あくまで戦力の均衡が目的であるため完全ウェーバー制を採用しており、指名重複(抽選)や自由獲得枠などは無い。





ドラフトの歴史

メジャーリーグのドラフト制度は1965年に導入された。
豊富な資金力を背景に圧倒的な強さを誇っていたニューヨーク・ヤンキースにそれ以上戦力が偏りすぎるのを防ぐためであった。
この結果、ヤンキースは1964年以降10年以上もリーグ優勝から遠ざかることとなり、この制度の成果は如実に現れた。
さらに1969年からはプレーオフ(2地区制)が導入され、1972年からのオークランド・アスレチックスワールドシリーズ3連覇まで毎年違うチームがワールドチャンピオンとなっている。
だが、1960年代後半以降、代理人制度が認められるとドラフト指名された有望選手にも代理人がつくようになり、契約金の高騰が起こっている。
このため、資金力に劣るチームは指名順位が高くても目玉選手を指名できず、指名順位が低いにもかかわらず資金力のあるチームがその選手を獲得できてしまう問題も発生している。
そのため、代理人が選手に有利な契約を結ばせる目的で極端に契約交渉を長引かせることを防ぐために、独占交渉権の期限を設けるなど対策をとっている





ルール・ファイブ・ドラフト

有望選手が十分な活躍の場を与えられずにマイナーリーグで半ば飼い殺し状態になることを防ぐ目的で、他チームの所属選手を指名し獲得できる制度である。名称の由来はMLB規約の第5条に規定されていることから。

毎年12月のウィンター・ミーティング最終日に行われる。メジャーの40人ロースター(選手登録枠)に空きがあるチームのみ参加可能で、その年の優先権のあるリーグでレギュラーシーズン勝率の低いチームから指名権が与えられる。優先リーグは毎年交互に入れ替わる。

制度の悪用による過剰な引き抜きを防止するため、以下のような規定が設けられている。



1988	アンディ・ベネス	サンディエゴ・パドレス	投手	エバンズビル大学
1989	ベン・マクドナルド	ボルチモア・オリオールズ	投手	ルイジアナ州立大学
1990	チップー・ジョーンズ	アトランタ・ブレーブス	遊撃手	Bolles High School
1991	ブリエン・テイラー	ニューヨーク・ヤンキース	投手	East Carteret High School
1992	フィル・ネビン	ヒューストン・アストロズ	三塁手	カリフォルニア州立大学フラトン校
1993	アレックス・ロドリゲス	シアトル・マリナーズ	遊撃手	Westminster Christian High School
1994	ポール・ウィルソン	ニューヨーク・メッツ	投手	フロリダ州立大学
1995	ダリン・アースタッド	カリフォルニア・エンゼルス	外野手	ネブラスカ大学リンカーン校
1996	クリス・ベンソン	ピッツバーグ・パイレーツ	投手	クレムゾン大学
1997	マット・アンダーソン	デトロイト・タイガース	投手	ライス大学
1998	パット・バレル	フィラデルフィア・フィリーズ	三塁手	マイアミ大学
1999	ジョシュ・ハミルトン	タンパベイ・デビルレイズ	外野手	Athens Drive High School
2000	エイドリアン・ゴンザレス	フロリダ・マーリンズ	一塁手	Eastlake High School
2001	ジョー・マウアー	ミネソタ・ツインズ	捕手	Cretin-Derham Hall High School
2002	ブライアン・バリントン	ピッツバーグ・パイレーツ	投手	ボールステイト大学
2003	デルモン・ヤング	タンパベイ・デビルレイズ	外野手	Adolfo Camarillo High School
2004	マット・ブッシュ	サンディエゴ・パドレス	遊撃手	Mission Bay Senior High School
2005	ジャスティン・アップトン	アリゾナ・ダイヤモンドバックス	遊撃手	Great Bridge High School
2006	ルーク・ホッチェバー	カンザスシティ・ロイヤルズ	投手	フォートワース・キャッツ
2007	デビッド・プライス	タンパベイ・デビルレイズ	投手	ヴァンダービルト大学
2008	ティム・ベッカム	タンパベイ・レイズ	遊撃手	Griffin High School
2009	スティーブン・ストラスパーグ	ワシントン・ナショナルズ	投手	サンディエゴ州立大学
2010	プライス・ハーパー	ワシントン・ナショナルズ	外野手	サザン・ネバダ・カレッジ
2011	ゲリット・コール	ピッツバーグ・パイレーツ	投手	カリフォルニア大学ロサンゼルス校
2012	カルロス・コレア	ヒューストン・アストロズ	遊撃手	Puerto Rico Baseball Academy and High School





順位	選手	チーム	守備位置	学校
1	カルロス・コレア	ヒューストン・アストロズ	遊撃手	Puerto Rico Baseball Academy and High School
2	バイロン・バクストン	ミネソタ・ツインズ	外野手	Appling County High School
3	マイク・ズニーノ	シアトル・マリナーズ	捕手	フロリダ大学
4	ケビン・ゴースマン	ボルチモア・オリオールズ	投手	ルイジアナ州立大学
5	カイル・ジマー	カンザスシティ・ロイヤルズ	投手	サンフランシスコ大学
6	アルバート・アルモラ	シカゴ・カブス	外野手	Mater Academy Charter School
7	マックス・フリード	サンディエゴ・パドレス	投手	Harvard-Westlake School
8	マーク・アップル*	ピッツバーグ・パイレーツ	投手	スタンフォード大学
9	アンドリュー・ヒーニー	マイアミ・マーリンズ	投手	オクラホマ州立大学
10	デビッド・ダール	コロラド・ロッキーズ	外野手	Oak Mountain High School
11	アディソン・ラッセル	オークランド・アスレチックス	遊撃手	Pace High School
12	ギャビン・チェッキーニ	ニューヨーク・メッツ	遊撃手	Barbe High School
13	コートニー・ホーキンス	シカゴ・ホワイトソックス	外野手	Carroll High School
14	ニック・トラビエソ	シンシナティ・レッズ	投手	Archbishop McCarthy High School
15	タイラー・ネイクイン	クリーブランド・インディアンス	外野手	テキサスA&M大学
16	ルーカス・ジオリト	ワシントン・ナショナルズ	投手	Harvard-Westlake School
17	D.J.デビス	トロント・ブルージェイズ	外野手	Stone High School
18	コーリー・シーガー	ロサンゼルス・ドジャース	遊撃手	Northwest Cabarrus High School
19	マイケル・ワッカ	セントルイス・カーディナルス ^[Compensation 1]	投手	テキサスA&M大学
20	クリス・ストラットン	サンフランシスコ・ジャイアンツ	投手	ミシシッピ州立大学
21	ルーカス・シムズ	アトランタ・ブレーブス	投手	Brookwood High School
22	マーカス・ストロマン	トロント・ブルージェイズ ^[Compensation 2]	投手	デューク大学
23	ジェームズ・ラムジー	セントルイス・カーディナルス	外野手	フロリダ州立大学
24	デブ・マレーロ	ボストン・レッドソックス	遊撃手	アリゾナ州立大学
25	リッチー・シェイファー	タンパベイ・レイズ	三塁手	クレムゾン大学
26	ストライカー・トラハン	アリゾナ・ダイヤモンドバックス	捕手	Acadiana High School
27	クリント・コールター	ミルウォーキー・ブルワーズ ^[Compensation 3]	捕手	Union High School
28	ビクター・ローチ	ミルウォーキー・ブルワーズ	外野手	ジョージア・サザン大学
29	ルイス・プリンソン	テキサス・レンジャーズ	外野手	Coral Springs High School
30	タイ・ヘンズリー	ニューヨーク・ヤンキース	投手	Edmond Santa Fe High School
31	ブライアン・ジョンソン	ボストン・レッドソックス ^[Compensation 4]	投手	フロリダ大学





国際化 NYYの場

投手

- 67 マニー・バナエロス (Manny Banuelos)
- 68 デリン・ベタンセス (Dellin Betances)
- 71 シーザー・カブラル (Cesar Cabral)
- 62 ジョバ・チェンバレン (Joba Chamberlain)
- 38 コディ・エプリー (Cody Eppley)
- 65 フィル・ヒューズ (Phil Hughes)

捕手

- 29 フランシスコ・セルベリ (Francisco Cervelli)
- 66 オースティン・ロマイノ (Austin Romine)
- 19 クリス・スチュワート (Chris Stewart)

- 27 ショーン・ケリー (Shawn Kelley)
- 18 黒田博樹 (Hiroki Kuroda)
- 48 ブーン・ローガン (Boone Logan)
- 70 ブレット・マーシャル (Brett Marshall)
- 47 イバン・ノバ (Ivan Nova)
- 46 アンディ・ペティット (Andy Pettitte)
- 41 デビッド・フェルプス (David Phelps)
- 35 マイケル・ピネダ (Michael Pineda)
- 72 ホセ・ラミレス (Jose Ramirez)
- 42 マリアノ・リベラ (Mariano Rivera)
- 30 デビッド・ロバートソン (David Robertson)
- 74 フランシスコ・ロンドン (Francisco Rondon)
- 52 CC・サバシア (CC Sabathia)
- 75 ニク・ターリー (Nik Turley)
- 61 アダム・ウォーレン (Adam Warren)





国際化 NYYの場合

内野手

- 24  ロビンソン・カノ (Robinson Cano)
- 2  デレク・ジーター (Derek Jeter)
- 77  コーバン・ジョセフ (Corban Joseph)
- 17  ジェイソン・ニックス (Jayson Nix)
- 26  エドゥアルド・ヌニェス (Eduardo Núñez)
- 55  ライル・オーバーベイ (Lyle Overbay)
- 13  アレックス・ロドリゲス (Alex Rodriguez)
- 25  マーク・テシェイラ (Mark Teixeira)
- 36  ケビン・ユーキリス (Kevin Youkilis)

外野手

- 78  ゾイロ・アルモンテ (Zoiilo Almonte)*
- 22  ブレナン・ボッシュ (Brennan Boesch)
- 79  ラモン・フローレス (Ramon Flores)*
- 45  ベン・フランシスコ (Ben Francisco)
- 11  ブレット・ガードナー (Brett Gardner)
- 14  カーティス・グランダーソン (Curtis Granderson)*
- 63  メルキー・メイサ (Melky Mesa)*
- 31  イチロー (Ichiro Suzuki)
- 12  バーノン・ウェルズ (Vernon Wells)





国際化 Bostonの場合

投手

91  アルフレド・アセベス (Alfredo Aceves)

40  アンドリュー・ベイリー (Andrew Bailey)

51  ダニエル・バード (Daniel Bard)

32  クレイグ・ブレスロウ (Craig Breslow)

66  ドレイク・ブリットン (Drake Britton)

11  クレイ・バックホルツ (Clay Buchholz)

62  ルビー・デラロサ (Rubby De La Rosa)

46  ライアン・デンプスター (Ryan Dempster)

22  フェリックス・ドゥブロン (Felix Doubront)

52  ジョエル・ハンラハン (Joel Hanrahan)

41  ジョン・ラッキー (John Lackey)

31  ジョン・レスター (Jon Lester)

30  アンドリュー・ミラー (Andrew Miller)

56  フランクリン・モラレス (Franklin Morales)

59  クレイトン・モーテンゼン (Clayton Mortensen)

36 ● 田澤純一 (Junichi Tazawa)

19 ● 上原浩治 (Koji Uehara)

64  アレン・ウェブスター (Allen Webster)

63  アレックス・ウィルソン (Alex Wilson)

67  スティーブン・ライト (Steven Wright)





国際化 Bostonの場合

捕手

- 61  ダン・バトラー (Dan Butler)
- 20  ライアン・ラバーンウェイ (Ryan Lavarnway)
- 3  デビッド・ロス (David Ross)
- 39  ジャロッド・サルタラマッキア (Jarrod Saltalamacchia)
- 70  クリスチャン・バスケス (Christian Vazquez)





国際化 NYYの場合

内野手

- 23  ペドロ・シリアコ (Pedro Ciriaco)
- 7  スティーブン・ドリュー (Stephen Drew)
- 50  モーロ・ゴメス (Mauro Gomez)
- 26  ブロック・ホルト (Brock Holt)
- 10  ホセ・イグレシアス (Jose Iglesias)
- 16  ウィル・ミドルブルックス (Will Middlebrooks)
- 12  マイク・ナポリ (Mike Napoli)
- 15  ダスティン・ペドロイア (Dustin Pedroia)

外野手

- 2  ジャコビー・エルズベリー (Jacoby Ellsbury)
- 5  ジョニー・ゴームス (Jonny Gomes)
- 68  アレックス・ハッサン (Alex Hassan)
- 55  ライアン・ケイリッシュ (Ryan Kalish)
- 29  ダニエル・ナバ (Daniel Nava)





ポスティング - システム (posting system)

「入札制度」の意味

1998年に調印された「日米間選手契約に関する協定」により創設。

日本の球団に所属するプロ野球選手が、米国メジャーリーグへ移籍するための制度の一つ。

日本で所属する球団の許可を得た選手のみが対象となる。

選手の獲得を望む米球団が移籍金額を入札し、選手の所属球団が受諾すると、米球団は選手との独占交渉権を獲得する。

選手との契約が成立すると、米球団は選手を手放した球団に落札額を支払う。選手に移籍先を選ぶ自由はない。

FA選手獲得と違う点としては、ドラフト指名権の譲渡義務が無いことと、入札金はぜいたく税の対象にならない点が挙げられ、テリー・フランコーナは同制度での松坂大輔獲得について「ダイスケを獲得できてよかった。なぜなら我々は誰も失いはしなかったからだ」と語っている。





導入の経緯

導入のきっかけは、野茂英雄が近鉄バファローズを退団したときの一連の出来事による。1995年に、FAではなかった野茂は、形式上日本プロ野球から任意引退し、ロサンゼルス・ドジャースと契約を結んだ。

任意引退を行った選手が他の日本球団と選手契約について交渉する際には、引退時に所属した球団の承諾を得なければならなかったが、「日米間選手契約に関する協定」の成立前において、メジャーリーグの球団が日本での最終所属球団の承諾を得ることが強制されていなかったことによる。

また1996年には、FAではなかった伊良部秀輝が当時の所属球団であるロッテに対し、ニューヨーク・ヤンキースへの移籍を強く主張。

結果、サンディエゴ・パドレスへのトレードを経て、ヤンキースへの移籍を実現させた(伊良部メジャーリーグ移籍騒動)。この際にメジャーリーグ側から球団間での獲得機会均等を実現する制度の要求があり、ポスティング制度の確立に繋がっている。



年度	選手	日本での所属球団	落札球団	落札金額
1998年	アレファンドロ・ケサダ	広島東洋カープ	シンシナティ・レッズ	40万0001ドル
2000年	イチロー	オリックス・ブルーウェーブ	シアトル・マリナーズ	1312万5000ドル
2001年	石井一久	ヤクルトスワローズ	ロサンゼルス・ドジャース	1126万4055ドル
2002年	ラモン・ラミーレス	広島東洋カープ	ニューヨーク・ヤンキース	30万0050ドル
2003年	大塚晶文	中日ドラゴンズ	サンディエゴ・パドレス	30万0000ドル
2004年	中村紀洋	オリックス・バファローズ	ロサンゼルス・ドジャース	非公表
2005年	森慎二	西武ライオンズ	タンパベイ・デビルレイズ	75万0000ドル
2006年	松坂大輔	西武ライオンズ	ボストン・レッドソックス	5111万1111ドル11セント
	岩村明憲	東京ヤクルトスワローズ	タンパベイ・デビルレイズ	450万0000ドル
	井川慶	阪神タイガース	ニューヨーク・ヤンキース	2600万0194ドル
2010年	西岡剛	千葉ロッテマリーンズ	ミネソタ・ツインズ	532万9000ドル
2011年	青木宣親	東京ヤクルトスワローズ	ミルウォーキー・ブルワーズ	250万0000ドル
	ダルビッシュ有	北海道日本ハムファイターズ	テキサス・レンジャーズ	5170万3411ドル





入札はあったが選手契約に至らなかったポスティング

年度	選手	日本での所属球団	落札球団	落札金額	その後
2010年	<u>岩隈久志</u>	<u>東北楽天ゴールデンイーグルス</u>	<u>オークランド・アスレチックス</u>	1910万ドル	楽天と再契約
2011年	<u>中島裕之</u>	<u>埼玉西武ライオンズ</u>	ニューヨーク・ヤンキース	250万ドル	西武と再契約





入札がなかったポスティング

年度	選手	日本での所属球団	その後
1998年	ティモニエル・ペレス	広島東洋カープ	広島と再契約
2002年	大塚晶文	大阪近鉄バファローズ	近鉄と再契約後、 中日 へ金銭トレード
2005年	入来祐作	北海道日本ハムファイターズ	自由契約となり、 メッツ と契約
2008年	三井浩二 三井浩二	埼玉西武ライオンズ	再手続き 西武と再契約
2011年	真田裕貴	横浜DeNAベイスターズ	自由契約となり、 巨人 と契約





その他の国の場合

年度	選手	韓国での所属球団	落札球団	落札金額	備考
1998年	李尚勳	LGツインズ	非公表	65万0000ドル00セント	選手契約に至らず
2002年	陳弼重	LGツインズ	非公表	2万5000ドル00セント	選手契約に至らず
2002年	林昌勇	三星ライオンズ	非公表	65万0000ドル00セント	選手契約に至らず
2009年	崔香男	ロッテジャイアンツ	セントルイス	101ドル00セント	
2012年	柳賢振	ハンファ・イーグルス	ロサンゼルス・ドジャース	2573万7737ドル33セント	





新しいポスティングシステム

日本野球機構(NPB)は9日、米大リーグ機構(MLB)との間で基本合意している新しいポスティングシステムについて、事務レベルの協議が終了したと発表した。

日本の球団が設定した移籍金(上限2000万ドル=約20億円)に応じる全球団に交渉権が与えられる。

